

# 1. 医学部医学科教育

平成14年度に、大幅な改編を伴う新しいカリキュラムに基づく全学教育並びに専門教育授業が導入され、本年度で2年目を迎えた。新たな1年生に対しては、大学教育機能開発センターを中心とした授業評価とその反省のもとに、昨年度のシステムに若干の訂正が加えられ、より進化した授業メニューとして提供された。一方、2年次に進級した学生には新カリキュラムに基づく授業が予定通り開始された。今後更に、学年進行で特に専門教育を中心として新カリキュラムが導入されていく予定であるが、医学教育改革に対する社会的要求は止まるところを知らず、緊急性も高い。我々も臨機応変に寄せる波に対応すべく適宜、いわば“新々カリキュラム”の策定と「まったなし」での実行を余儀なくされている。

(平成15年度 医学部長：兼松隆之、教務委員長：小路武彦、学生委員長：大園恵幸、  
入試委員長：近藤宇史)

## A. 全学教育

昨年度、全学教育が始まって以来の大幅改訂に基づく新カリキュラムが施行された。従来全学教育科目として行われていた教養から専門への橋渡しとなる科目（B科目群）は、実質廃止・改編され専門科目として行われることになった。必修単位数も47単位から30単位へ大幅に削減され、履修単位数の上限も設けられた。また、新入生を対象に始まった少人数教育「教養セミナー」は、その有効性の評価法と小グループを構成する教員及び学生の専門性の違いに関する問題点を含みながらも、平成15年度も実施された。医学部は、全学教育に於いて選択科目群の一つである人間科学分野の責任部局として運営を担っている。医学科からは、講義科目ではのべ135名の教官が14科目の授業を担当した。また、教養セミナーでは42名の医学科教官が担当した（表1）。

## B. 専門教育

昨年より1年次では、全学教育授業日が週3日間に減り専門教育授業日が週2日間に増加すると共に、新カリキュラムが導入されている。従来全学教育で行われていた専門準備科目がなくなり、以前から行われている「人間生物学」に加えて「細胞生物学」「医学統計学」「生物化学」「生物・化学実習」が新たに専門科目に付け加えられた。また、長崎大学医学部医学科の特色ある教育として「原爆医学概論」「医学は長崎から」が新規科目として開始された。1年次「医と社会」では、医学科・保健学科の共修の授業も企画された。また、学生による授業評価と表裏一体をなすものとして学生の成績評価の厳格化が求められ、新たに1年次から2年次への進級バリアーが設けられた。新カリキュラム2年次に於いては、基本的には従来の枠組みを維持しながら、コア・カリキュラムの積極的な活用による授業時間の短縮を行い、一方でより進んだ内容を少人数グループ形式の選択必須科目として提供する「医学ゼミ」を本年度から導入した。3年次以上の学年に関しては、従来の60分授業と90分授業の混在型から1コマ90分に統一されたことに伴う若干の枠組みの変更と、平成11年度のカリキュラム改訂に伴う学年進行に基づく改訂が行われた。4

年次のリサーチセミナーは、昨年と同様各基礎教室に4名以内の学生が配属された。また5名の学生が海外実習に参加した(表3)。臨床実習協定締結施設は16施設、臨床教授・臨床助教授も26名に増加した(表4)。平成15年度の卒業生は80名でその国家試験合格率は100%であった(既卒者を加えると89.2%)。

### C. 共用試験

平成17年度の本格的導入に向けて、昨年に引き続き「臨床実習開始前の共用試験」の問題作成と第3回トライアルが行われた。共用試験とは、知識・技能・態度をコンピューター試験(CBT)と客観的臨床能力試験(OSCE)の二本立てで評価するものである。CBT実施に向けて本学にも94題以上の問題作成が依頼され、26名のCBT問題作成委員会(下川功委員長、他25名)を組織して問題作成及びそのブラッシュアップを行った。また、第3回CBTトライアルは、平成15年12月26日、平成16年2月23日、3月8日及び3月29日(追試)の4回に分けて行われた。OSCEは、4年次前期科目「診断学」の試験として実施され、外部評価者として佐賀大学より6名の評価委員が参加した。

特に本年度のCBTトライアル問題への本大学作成問題の採択率は、64.8%と全国80参加大学中5位の好成績であった。

### D. 第3回医学部医学科FDの実施について

臨床実習の高度化、課題探索・自己問題解決型学習能力の賦与、及び全人的医療人識教育の場としての離島利用等を目指し、来年度(平成16年度)から5年次各科ローテーションを従来の13組各3週から14組各2週に短縮し、6年次に高次臨床を導入することとなった。更に、5年次にProblem Based Learning(PBL)チュートリアルを導入することも決定され、離島医療実習も組織的な導入が決まった。また、医師国家試験の実施時期の繰り上げと受験回数制限、及び本学に於ける合格率の低迷を受けて、最終試験(卒業試験)のあり方に関しても議論が巻き起こっている。このような動きを意識して、今回のFDは特に臨床教官の出席を促すため平日の午後に開催することとし、まず第一日目(平成15年11月18日)に、小路武彦教務委員長より本学に於ける教育改革の現状を説明するとともに、島根大学医学部益田順一教授及び土屋美加子教授よりPBLチュートリアルに関する御講演とワークショップを行った。また第二日目(同11月20日)には、試験問題作成法に関する御講演を、本学の兼松隆之医学部長及び森内浩幸卒試トライアル問題作成委員長より頂戴し、その後総合討論を行った。今回のFDでは、のべ70名以上の御出席を頂き熱心な御議論を頂いた。これらの討議内容が、今後の本学医学教育改革に一石を投じることを念じて止まない。

(文責：医学部医学科 教務委員長 小路武彦)

表1 平成15年度 医学部教官の全学教育への参画

## A. 全学教育授業科目担当の医学部教官

分野	授業科目名	担 当 教 官
共通基礎科目	教養セミナー	田口 尚、谷山紘太郎、矢野捷介、中園一郎、大園恵幸、森内浩幸、進藤裕幸、青柳 潔、佐藤 浩、篠原一之、陣内逸郎、柴田 治、貝原宗重、高村 昇、諸岡浩明、北岡 隆、永山雄二、清水和宏、前田隆浩、川崎英二、木下英一、塚崎邦弘、松下哲朗、上園保仁、近藤達郎、宮副初司、弦本敏行、津田亮一、池松和哉、田島義証、斎藤了一、宮 華青、伊東昌子、秋野公造、藤村幸一、大野康治、中山 享、赤嶺晋治、戸田源二、中島正洋、濱崎圭輔、草野洋介
	教養特別講義	相川忠臣、関根一郎、朝長万左男、片峰 茂
情報処理科目	情報処理入門	本多正幸、三根真理子、山野邊裕二
健康・スポーツ科学科目	健康スポーツ科学	草場英介、衛藤正雄、平瀉洋一
	健康科学	石丸忠之、大園恵幸、有澤孝吉、岡 三喜男、草場英介、難波裕幸、牧山和也、諸岡浩明、芦澤直人、伊東 勉、山崎浩則、川崎英二、原 哲也、平瀉洋一、藤下 晃、榎田徹次、山近史郎、吉村秀一郎、今村 明、中根秀之、福田久信、藤丸浩輔、森本浩之輔
人間科学科目	人間の科学	下川 功、中園一郎、篠原一之、木下英一、古賀成彦、増崎英明、池松和哉、宮副初司、西原永潤、守屋孝洋、上玉利 彰
	生体の機能	金武 洋、近藤宇史、佐々木 均、澄川耕二、丹羽正美、下川 功、高橋晴雄、北岡 隆、貝原宗重、樋上賀一、瀬戸信二、古賀成彦、中嶋幹郎、永山雄二、調 漸、井原義人、陣内逸郎、上園保仁、磯本正二郎、徳永能治、野俣浩一郎、藤丸浩輔、山下康子、塚崎邦弘、大谷 博、大野秀明
	生命の科学	岡市協生、松本逸郎
	人間と環境	奥村 寛、辻村 徹、松本智子、今村 明、中根秀之
	生体の構造	小路武彦、松山俊文、関根一郎、松本直通、近藤達郎、山本一男、菱川善隆、津田亮一、中山敏幸、中島正洋、河野友子
自然科学科目	生物の科学	伊藤 敬
	数理科学	本多正幸
総合科学科目	現代の生命像	兼松隆之
	情報と歴史	相川忠臣
	放射能の光と影	林 邦昭

B. 全学教育関連委員会の医学部委員

委 員 会		委 員
全 学 教 育 実 施 委 員 会		小 路 武 彦 (教務委員長)
全学教育実施委員会 (科目別専門委員会)	教養セミナー専門委員会委員	由 井 克 之 (人間科学専門委員会委員長)
	教養セミナー専門委員会委員	中 園 一 郎
	教養特別講義専門委員会委員	本 多 正 幸
	情報処理科目専門委員会委員	柴 田 義 貞
	健康・スポーツ科学専門委員会委員	進 藤 裕 幸
	外国語科目専門委員会委員	森 内 浩 幸
	人文・社会科学専門委員会委員	長 島 聖 司
	人 間 科 学 専 門 委 員 会 委 員	由 井 克 之
		篠 原 一 之
		高 橋 晴 雄
	自 然 科 学 専 門 委 員 会 委 員	佐々木 均
		山 下 俊 一
		佐 藤 浩
総 合 科 学 専 門 委 員 会 委 員	下 川 功	
留 学 生 用 科 目 専 門 委 員 会 委 員	江 石 清 行	

表2 平成15年度 1～6年次授業科目(系)責任者

学年	授業科目	責任者	学年	授業科目	責任者
1 年 次	医と社会(医学入門)	大園 恵 幸	4 年 次	中毒・物理的要因系	青 柳 潔
	人間生物学	小路 武彦		感覚系(眼科学)	北岡 隆
	細胞生物学	山下 俊一		感覚系(耳鼻咽喉科学)	高橋 晴雄
	医学統計学	柴田 義貞		皮膚・結合組織系	片山 一朗
	生物化学	伊藤 敬		精神系	辻村 徹
	生物・化学実習	伊藤 敬		診断学	大園 恵幸
	原爆医学概論	朝長 万左男		外科治療学	兼松 隆之
	人体構造系 I	長島 聖司		熱帯医学	由井 克之
2 年 次	医と社会	相川忠臣・中園一郎	5 年 次	リサーチセミナー	下川 功
	人体構造系 II	長島 聖司		社会医学	青柳 潔
	神経・感覚器系	黒川 衛		内科総括講義	江口 勝美
	発生・組織系	小路 武彦		臨床検査医学総括講義	上平 憲
	動物性機能系	篠原 一之		医と社会	大園 恵幸
	内臓機能・体液系	相川 忠臣		社会医学	青柳 潔
	生体分子系	伊藤 敬		法医学	中園 一郎
	分子遺伝系	新川 詔夫		内科総括講義	江口 勝美
3 年 次	医学ゼミ	由井 克之	6 年 次	精神神経科総括講義	辻村 徹
	医と社会	相川忠臣・中園一郎		小児科総括講義	森内 浩幸
		大園 恵幸		外科総括講義	兼松 隆之
	感染系	片峰 茂		整形外科総括講義	進藤 裕幸
	免疫系	由井 克之		皮膚科総括講義	片山 一朗
	病理総論系	下川 功		泌尿器科総括講義	金武 洋
	腫瘍系	松山 俊文		眼科総括講義	北岡 隆
	分子病態系	近藤 宇史		耳鼻咽喉科総括講義	高橋 晴雄
	環境因子系 I	奥村 寛		放射線医学総括講義	林 邦昭
	環境因子系 II	中込 治		産婦人科総括講義	石丸 忠之
	薬理学	谷山 紘太郎		麻酔科総括講義	澄川 耕二
	病理各論系 I	田口 尚		脳神経外科総括講義	永田 泉
	病理各論系 II	田口 尚		形成外科総括講義	平野 明喜
	内分泌・代謝・栄養系	江口 勝美		心臓血管外科総括講義	江石 清行
4 年 次	循環器系	矢野 捷介	臨床検査医学総括講義	上平 憲	
	呼吸器系	河野 茂	総合病理学	関根 一郎	
	血液・リンパ系	朝長 万左男	臨床特論	朝長 万左男	
	応用薬理学(選択科目)	丹羽 正美	総合科目	矢野 捷介	
	消化器系	関根 一郎	内科総括講義	江口 勝美	
	脳・神経系	中村 龍文	外科総括講義	兼松 隆之	
5 年 次	腎泌尿器系	金武 洋	臨床特論	朝長 万左男	
	生殖系	石丸 忠之	医と社会	大園 恵幸	
	運動系	進藤 裕幸	最終臨床総括講義	矢野 捷介	
	小児系	森内 浩幸			

表3 平成15年度 4年次後期「リサーチセミナー」

教室名	指導教官	研究テーマ	受講学生数
解剖学第一	黒川 衛	老化に伴う高次脳機能及び大脳&辺縁系の構造変化（モデルマウスを用いて）	1
	黒川 衛	雌雄差に伴う終脳、海馬、視床下部の構造及び高次脳機能の変化（BL/6Jマウスでの検討）	1
解剖学第二	長島 聖司 分部 哲秋	人体の局所解剖	1
	岡本 圭史 佐伯 和信	人体の局所解剖	2
解剖学第三	小路 武彦	環境毒性金属の妊娠マウスへの影響	2
	菱川 善隆	in vivo 及び in vitro での遺伝子導入による精子形成過程への影響	2
	江島 邦彰		
生理学第一	松本 逸郎	LSP、シスプラチン、拘束誘発ストレスと摂食行動	3
生理学第二	篠原 一之	香り成分の女性や乳幼児の脳機能に及ぼす影響	1
	藤村 幸一	体内時計の光同調現象の神経生理学	1
	西原 永潤	転写因子と生物時計	1
	守屋 孝洋	活動電位を指標にした神経幹細胞から機能性ニューロンへの分化誘導法の確立	1
生化学	伊藤 敬	ヌクレオソーマルヒストンリン酸化酵素の解析	1
	安井 潔	ヒストンメチル化酵素増強因子の解析	1
	中川 武弥	ヒストン脱アセチル化酵素の解析	1
薬理学第一	丹羽 正美	血液脳関門（BBB）と薬物の中枢送達性	1
	永山 雄二	癌の遺伝子治療	1
	山下 康子	血液脳関門（BBB）と抗痴呆薬・抗プリオン薬	1
	古川 ひさ子	抗プリオン薬と抗痴呆薬	1
薬理学第二	谷山 紘太郎 貝原 宗重	受容体およびイオンチャネルクローニングとその発現	2
	上園 保仁	消化管運動改善薬の作用機序	3
	林 日出喜	細胞死（アポトーシス）関連遺伝子のクローニング	1
病理学第一	下川 功	長寿命ラットにおけるストレス応答	1
	樋上 賀一	寿命延長・抗老化作用のあるカロリー制限による白色脂肪組織の形質変化	1
	大谷 博	特定の臓器・組織を用いた臨床病理学的検討	1
	山座 治義	長寿モデルラットの解析	1
病理学第二	田口 尚	腎臓病理学	2
公衆衛生学	青柳 潔	VDT作業の身体的健康影響	1

教室名	指導教官	研究テーマ	受講学生数
公衆衛生学	高村 昇	旧ソ連邦ヒバク地域における分子疫学調査	2
	安部 恵代	VDT 作業の精神的健康影響	1
	草野 洋介	長崎の医学史～先駆者たちの偶像	1
免疫機能制御 (医動物)	由井 克之	マラリアワクチン開発の基礎研究	2
	本間 季里	樹状細胞とマクロファージ活性化における IRF-4 の役割	1
	塚田 晃三	免疫寛容の制御に関する研究	1
法医学	中園 一郎 津田 亮一 池松 和哉	二次元電気泳動法を用いた損傷皮膚における蛋白質動態の解析	1
	中園 一郎 津田 亮一 池松 和哉	頸部組織における圧迫時の遺伝子発現の解析	1
	中園 一郎 津田 亮一 池松 和哉	超生反応期の遺伝子と蛋白質の動態解析	1
原研病理	関根 一郎 松 鶴 睦美	放射線腸炎に対する治療薬の開発・検討	1
	七條 和子	難治性腸炎における病理学的検討	1
	中山 敏幸	胃癌細胞における IL-11 の役割	1
	中島 正洋	被爆者甲状腺腫瘍における re/PTC 再構成の有無の検討	1
原研放射	岡市 協生	p53 のリン酸化とシグナル伝達	1
原研放射 (アイソトープ実験施設)	奥村 寛樹 松田 尚	太陽紫外線に対する細胞の応答機構	2
原研生化	近藤 宇史人 藤原 義人	小胞体ストレスとグライコミクス研究	1
	近藤 宇史人 浦田 芳重	血管老化、分子マーカーの検索	1
	近藤 宇史人 後藤 信治	酸化ストレスとアポトーシス/抗アポトーシスの仕組み	1
原研疫学	柴田 義貞 三根 真理子	生活習慣病等のリスク因子に関するメタ・アナリシス	2
原研遺伝	吉浦 孝一郎	疾患遺伝子のポジショナルクローニング	1
	木下 晃	耳アカ型遺伝子のポジショナルクローニング	1
原研細胞	山下 俊一	国際ヒバクシャ医療協力と分子疫学調査	1
	難波 裕幸	放射線誘発がんの分子生物学的研究	2
感染防御	山本 一男	インターフェロン制御因子ファミリーによる転写調節機構	2
	河野 友子	腫瘍壊死因子 (TNF) と生体防御機構	2

教室名	指導教官	研究テーマ	受講学生数
感染分子	坂口末廣	プリオンの分子生物学	1
熱帯医学研究所			
分子構造	森田公一	フラビウィルスの迅速遺伝子増巾法の開発	2
	長谷部太	デングウィルス2型の細胞向性に関する研究	2
病原因子	平山壽哉 和田昭裕	ヘリコバクター・ピロリの産生する空胞化毒素の作用機序解析	2
感染細胞	上村春樹	トリパノソーマの感染と宿主ヒト細胞の応答	1
	中澤秀介	ベトナムにおける乾季のマラリア調査	2
	神原廣二 柳哲雄	インドネシア スラバヤにおける腸管内寄生原虫症	2
寄生行動	青木克己 渡部幹次	住血吸虫ミラシジラムの遊泳行動	1
	藤巻康教	糸状虫感染幼虫の宿主侵入行動を惹起する誘引物質の探究	1
	渡部幹次 青木克己	ケニアに於けるビルハルツ住血吸虫症：排尿困難の調査	1
炎症細胞	中村三千男	新奇 G/T ミスマッチ結合タンパク質の精製とクローニング	1
		HIV 潜伏感染細胞特異的ヒト IgM 産生細胞の樹立	
病変発現	鳥山寛	肝疾患の臨床病理学	2
生物環境	高木正洋 川田均	インドネシアロンボク島のマラリア媒介蚊コントロール特に新しい化学的防除法導入の試み	4
疾病生態	平山謙二 菊池三穂子	ヒトゲノムの SNP を用いたデング出血熱感受性遺伝子マッピング	2
熱帯感染症研究センター	嶋田雅暁 門司和彦	ケニアにおける住血吸虫対策フィールド・ワーク（他）	2

### 海外派遣実習生

大学名	実習学生数
1 ライデン大学医学部	1
2 ビュルツブルグ大学医学部	2
3 ベラルーシ医科大学	2



表4 A. 平成15年度長崎大学医学部臨床実習協定締結施設

	施設名	協定年月日
1	長崎市立市民病院	平成8年6月1日
2	日本赤十字社 長崎原爆病院	平成8年6月1日
3	長崎市立病院成人病センター	平成8年6月1日
4	長崎県立大村病院	平成8年6月1日
5	財団法人 長崎県総合保健センター	平成8年6月1日
6	医療法人春回会 長崎北病院	平成10年5月20日
7	江上耳鼻咽喉科医院	平成11年5月31日
8	医療法人祥二会 西諫早病院	平成12年6月19日
9	医療法人白十字会 佐世保中央病院	平成12年7月21日
10	長崎市中央保健センター（長崎市保健所）	平成12年11月24日
11	医療法人友愛会介護老人保健施設 にしきの里	平成12年11月24日
12	阿南皮膚科医院	平成13年5月11日
13	医療法人北辰会 久保皮膚科医院	平成13年5月11日
14	国立療養所長崎病院	平成13年5月11日
15	虹が丘病院	平成13年8月7日
16	医療法人昌正会 出口病院	平成14年7月18日

## B. 平成15年度長崎大学医学部臨床教授、臨床助教授、臨床講師一覧

称号	氏名	施設名
臨床教授	楠本征夫	長崎市立市民病院
臨床教授	鈴木伸	長崎市立市民病院
臨床教授	宮田昭海	長崎市立市民病院
臨床教授	廣瀬療二	長崎市立市民病院
臨床教授	古川隆二	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	中尾丞	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	鳥山史	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	中島成人	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	高橋克朗	長崎県立大村病院
臨床教授	田浦幸一	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	須山尚史	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	田所正人	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	山崎和文	長崎市立病院成人病センター
臨床講師	矢加部和明	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	富田弘志	長崎県総合保健センター
臨床教授	辻畑光宏	医療法人春回会長崎北病院
臨床教授	佐藤聡	医療法人春回会長崎北病院
臨床教授	江上徹也	江上耳鼻咽喉科医院
臨床教授	千葉憲哉	医療法人祥仁会西諫早病院
臨床教授	植木幸孝	白十字会佐世保中央病院
臨床教授	阿南貞雄	阿南皮膚科医院
臨床教授	久保容二郎	医療法人北辰会久保皮膚科医院
臨床教授	馬場輝実子	国立療養所長崎病院
臨床教授	平松公三郎	国立療養所長崎病院
臨床教授	本山和徳	国立療養所長崎病院
臨床教授	藤岡ひかる	国立病院長崎医療センター